

図 4-4 2010 年度および 2011 年度のわな G の周辺地域におけるシカの捕獲数  
2011 年度は 11 月末までの暫定値を示す

## 2 . GPS 追跡調査地点周辺における捕獲圧

GPS 追跡調査個体が行動する地域の周辺のデータとしては、最外郭で示された行動圏の北側のメッシュで 244 頭、南側で 310 頭の捕獲が記録されている。このうち南側メッシュ (49325672) がメッシュの配置から、GPS 追跡個体の行動圏に直接関係するものと推測される (図 4-2)。

図 4-5 にはメッシュ 49325672 におけるシカの捕獲数の月別の集計値を示した。GPS の追跡調査を開始した時期は 11 月の 22 日であった。この時期からの年末までの約 1 ヶ月間は狩猟期に入っていることもあり、年間で最も捕獲圧が高い時期であったことがこの図からも示される。

捕獲圧が GPS 個体にどのような影響を与えたかは推測の域を出ないが、少なくとも 12 月は当地域において高い捕獲圧がかかっていたことから、GPS 個体は捕獲圧の弱い地域に移動していたものと推測される。12 月の測位データの大部分が欠測となっているため、この時期の行動の評価はできないが、12 月末から 1 月初旬には行動圏の東端で行動し、以後は行動圏を西に移したことが捕獲による攪乱の影響による移動であるかも知れない。

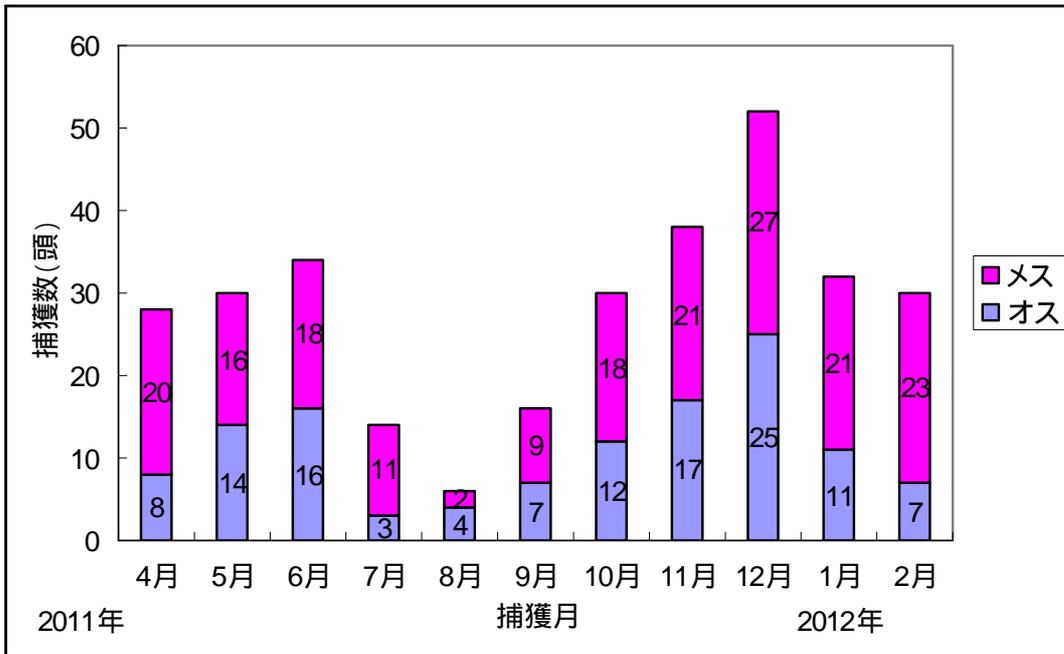


図 4-5 GPS 追跡調査地の周辺地域 (メッシュ番号 49325672) におけるシカの捕獲数 (2011/4月～2012/2月中旬 数値は暫定値)

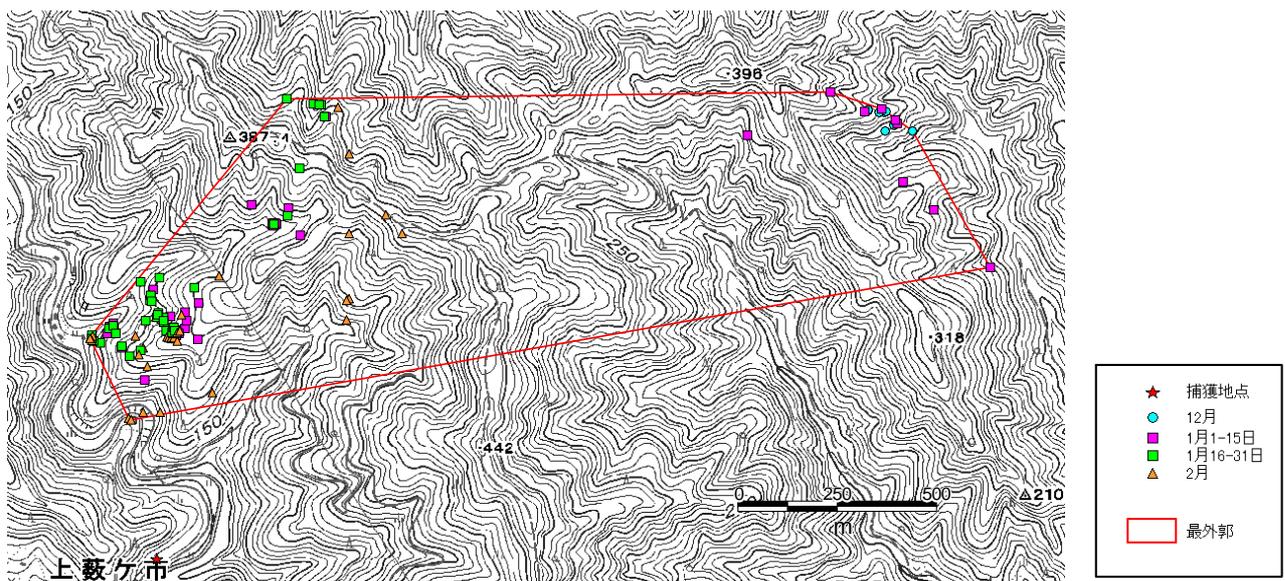


図 4-6 時期別に色分けしたGPS 追跡調査個体の活動点

本調査は1頭の行動の短期間の調査であったことから、当地域のシカの行動を断片的に評価しているに過ぎない。捕獲圧とシカの行動の関連を正確に把握するためには、捕獲圧の加わり方がより明確な地域において複数個体を対象にして調査を行う必要があるだろう。

## 参考文献

- 野生鳥獣対策四県連携協議会・野生動物保護管理事務所．2011．平成 22 年度 野生鳥獣（ニホンジカ）捕獲実験事業報告書.47pp
- 遠藤晃・土肥昭夫・伊澤雅子・矢部恒晶・辻高史．2000．シカ用生け捕りワナ EN-TRAP の試作・適用．哺乳類科学，40(2)，145-153.
- 濱崎伸一郎．1998．野生動物の捕獲と化学的不動化-中・大型哺乳類の捕獲-．獣医畜産新報，51，69-73．
- Ramsay, C.W. 1968. A drop-net deer trap. J. Wildl. Manage. 32, 187-190.
- 鈴木正嗣（編訳）．2001.野生動物の研究と管理技術．文永堂出版，東京，898pp．
- 高橋裕史・梶光一・田中純平・浅野玄・大沼学・上野真由美・平川浩文・赤松里香．2004．罠いワナを用いたニホンジカの大量捕獲．哺乳類科学，44(1)，1-15.
- 宇野裕之・梶光一・鈴木正嗣・山中正実・増田泰．1996．アルパインキャプチャーによるニホンジカの大量捕獲法の検討．哺乳類科学，36(1)，25-32.
- 依光良三（編）．シカと日本の森林．築地書館，東京，266pp.
- 環境省．2010．ルサ相泊地区におけるシャープシューティングの試行によるエゾシカ捕獲の実施について．環境省釧路自然環境事務所報道発表資料
- 兵庫県森林動物研究センター．2010.新型シカ捕獲装置マニュアル（Ver. 2）
- 野生動物保護管理事務所.2011．平成 22 年度特定鳥獣保護管理計画 モニタリング手法等開発調査.45pp